

令和6年度 第3号

学校教育目標:「ひと」とともに生きる生徒の育成



# 植竹中だより

令和6年5月31日(金)発行

学校 Web ページ



目指す生徒像:自ら考え、行動できる生徒「笑顔でおはよう」「笑顔でさようなら」1日を満足させる  
〒331-0804 さいたま市北区土呂町352 TEL 048(663)2115 さいたま市立植竹中学校 FAX 048(665)6377

## 挑 戦

校長 上 続 昌 司

6月と言えば梅雨のイメージが強く、雨が降り続く映像が浮かんできます。「沖縄地方では平年より11日遅く梅雨入りしました」と、テレビで報道されていました。関東地方は、しばらく先になるようですが、いつ梅雨入りするのか気になるところです。そして、この時期に咲く花と言えば紫陽花です。薄いピンクや水色、薄紫色等の花びらが雨に濡れて鮮やかに咲いているのを見ると、少し心が和みます。この時期にしか見られない風景を楽しみたいものですね。

6月でもう一つ私がイメージすることは、学校総合体育大会です。本年度も、6月1日から、多くの種目が各会場で熱戦をくりひろげてくれることでしょう。3年生にとっては、いよいよ最後の公式戦となります。1年生の時から練習してきた成果を、どれだけ発揮することができるのか、考えるだけでワクワクする気持ちと、緊張感も同時に襲ってくるのではないのでしょうか。2年生は、3年生と一緒に闘うのが最後になり、その後は自分たちが後輩を引っ張っていく立場となりますね。1年生は、初めて公式戦を経験することになります。公式戦独特の緊張感を目の当たりにすると、先輩たちがこの日に向けて一生懸命練習を積み重ねてきた理由が分かると思います。練習や練習試合と違うのは、「負けたら終わり」ということです。次はない、もう一度挑戦することは無いのです。だからこそ、この大会にかける想いは大きくなります。

そんな大会を迎える皆さんに、私からアドバイスを送ります。

- 1 「反省は試合が終わってから」
- 2 「相手は同じ中学生」
- 3 「自分を信じ、仲間を信じる」

誰も緊張し、時にはミスをすることもあるでしょう。そんな時人は「なぜミスしてしまったのか」と、考えてしまいがちですが、試合中そんな時間の余裕はありません。時は過ぎ、どんどん流れていきます。いかに早く気持ちを切り替え、次に挑むことができるのかが大切です。試合が終わってから十分に反省する時間はあります。

学校総合体育大会に出場しているのは、当たり前のことですが皆同じ中学生です。高校生や大学生、プロの選手と闘うわけではありません。だからこそ、気負い過ぎず、構え過ぎず挑むことが大切です。

そして、最も重要なことは信じることです。「精一杯練習してきたんだ」と、今まで努力してきた自分を信じるのです。そして、仲間を信じることで勇気が湧いてきます。相手にとって、仲間を強く信じて結束力のあるチームこそ脅威に感じるはずです。たとえ仲間がミスをしたとしても「次はきっと良いプレーをしてくれるはず」と、互いに思えるチームは、想像以上の大きな力を生み出してくれるのです。いざ、挑戦の時から始まります。思う存分、闘ってきてください。心の底からエールを送ります!